

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策	
目標	策
知識・技能	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を目指し、個の定着度に応じた反復練習に取り組ませる。その際、生徒の学習履歴等に基づき、適時アドバイスを送り、朝の学習や家庭学習を活用した取り組みを行う。
思考・判断・表現	⇒ 「言語能力」を育成するため、国語科を中心に作成した「自己表現マニュアル」を全教科で共有し、自分の考えを表現し、発表する際に活用する。発表の際には、マニュアルに基づいた指導を行い、より伝わりやすい発表に向けて、評価・改善を促す。
主体的に学習に取り組む態度	⇒ 全ての教科において、実社会に結びつく課題設定の工夫をする。そして、授業での知識の習得にとどまらず、学んだ知識が実社会でどのように活用されているのかを意識できるよう「STEAMS TIME」で学習テーマを設定する。

次年度に向けて (3月)

目標・策の設定 (4月)

年度末評価 (2月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	<p>調査結果分析(2月)</p> <p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

結果提供(2月)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、本市の結果と比較し、国語+7.5pt、数学+8pt、英語+11.3ptであった。特に、国語は、いずれの設問においても、高い正答率を示し、指導の成果が伺える。一方、各教科において、本市の正答率が低い設問(5割未満)において、市の平均を上回るものの本校でも正答率が低くなっており、課題と考えられるものがあった。今後は、課題と考えられる設問について、校内で共有し、指導の改善に活かしていく。
思考・判断・表現	R5全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、本市の結果と比較し、国語+7pt、数学+10.9pt、英語+7.7ptであった。本校は、いずれの設問においても、本市の結果と比較し正答率が高い傾向が伺える。一方、「思考・判断・表現」における「記述式」の設問については、いずれの教科においても、無解答率が高い傾向にあり、課題がみられる。自らの考えを表現する際には、あらかじめ何も書かないのではなく、途中まででも自分なりの考えを表現する「やり抜く力」を高められるよう、普段の授業から指導していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5全国学力・学習状況調査において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は85%を超えたものの、目標値の90%は達成できなかった。ただし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況に関わる設問の中では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目における肯定的な回答が、他の質問に比べ高かった。今後は、目標達成に向けて、課題について個人でじっくり考える機会や時間を充実させることができるよう、授業改善に努めていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)



④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)	
目標	策
知識・技能	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	⇒ 変更なし

中間評価(9月)
目標・策の見直し